

私たちが若かった昭和初期の頃、当時の陸軍では食糧や弾薬などを補給する輜重兵を軽視する傾向があり、「輜重輸卒が兵隊ならば蝶々トンボも鳥のうち」というザレ歌があったぐらいで、日本陸軍の頭の古さが思いやられる。

私たちも陸軍予科士官学校を卒業する時に兵科を命じられたが、第一線で戦う歩兵や騎兵（後の戦車機甲部隊）などの希望が多く、輜重兵を命じられるとがっかりしていた。

このため、勝ち戦の中国戦線でさえ飢え死にする兵士がいたぐらいで、補給を重視する米軍とは大差があり、これも敗戦の一因と思っている。

今次大戦中、しばらく北千島の守備にあたっていたが、ある時米軍が一時占領して撤退した陣地を訪れたことがあった。米兵は一人もいなかったが、中を見ると衣料、食糧などが山のように積み上げられ、中にはチョコレートまであり驚いたものだった。

北千島では食糧の補給が乏しく、皆飢えていて野原に生えている野草を取って食べたなら、それが毒草で全員下痢をして苦しんだことがあった。食糧補給は弾薬以上に重要だと

## 日本陸軍が

### 改めるべきだったこと

伊佐 二久 陸士55

私は今次大戦の終戦時、陸軍大尉であったが、当時の日本陸軍を反省して改めるべきことが多かったと思っている。百歳の旧軍人の反省としてお読みいただければと存じます。

#### 1 輜重兵のこと

痛感したことであった。

## 2 1カ月入浴せず虱増産

北千島に上陸当時は守備が目的のため、入浴などには関心がなく全員着替えもしていなかった。そのうち身体が痒いと言う兵士が出てきたので下着を調べてみると、虱しらみがわんさど出てきたので驚いたものである。

私も下着を脱いで調べたら虱がうようよと這いまわっていた。蚤のみと違い、色が白いので見逃していたらしい。早速全員下着を脱いで洗濯し、風呂はないのでドラム缶にお湯を入れて入浴したら皆痒みから解放されて熟睡できたものである。

日本国内で毎日入浴している人にはわからないだろうが、清潔、入浴の大切さを痛感したものである。

## 3 補給欠如

1の輜重兵と関係があるが、日本人は何でも「我慢、我慢」が美德とされていた。特に軍隊は軍人勅諭で五カ条に忠節、礼儀、武勇、信義などとともに質素があり、野外演習などでも水分補給に水筒1本で我慢していた。そのため、ある時、夏の演習で汗だくになっていたら野原に井戸を見つけた。近くには人家もなく、真夜中でよく見えなかったが、井戸

水だから清潔だろうと確かめもせず  
に皆がガブ飲みしていた。

翌朝明るくなって井戸を覗いてみたら、ボウフラがわんさと泳いでいるのに驚いたものである。おかげで全員激しい下痢に悩まされたものであった。昔の日本は貧しかったので、我慢、質素が美德とされていたのを思い出している。

## 4 歩兵の重視

私たちが若い頃は「軍の主兵はここにあり 騎兵 砲兵任につけ」という軍歌があったほど昔は歩兵が重視されていた。

明治、大正時代は戦車や航空機もなく歩兵が主体で、優秀な生徒はほとんど歩兵に任じられており、師团长や軍司令官に任じられる人はほとんど歩兵出身であった。このため陸軍の主要方針まで歩兵出身の人が決めていたようである。政府が平和を考えていても、戦地の歩兵が戦闘を続けているとこれに引きずられて戦争になってしまうこともあった。

以上、日本陸軍が改めるべきだったことについて、その一員だった立場から反省を述べさせていただいた。